

環境という本質を見失うことなく、 時代とともに変容を遂げ、新たな価値を創出する

これからのために、 新和環境のあり方を見つめ直す

私たち新和環境は、産業廃棄物処理事業をコア事業とし、1974年に創業しました。環境を基盤とする会社としてあるべき姿を追求する中で、アスベスト工事や環境改善工事を行う工事事業、設計事業も開始し、事業を拡大してきました。それが結果的に、産業廃棄物処理業者が内装解体工事から廃棄物処理まで一貫して行うことで、「低コスト化、安心、省エネを同時に実現する」という当社の強みに繋がっています。

当社は環境を基盤とする事業を展開しており、CSRへの取り組みは特に重要だと考えています。これまで環境負荷低減や地域社会の環境保全に取り組んできました。しかし、近年では、「持続可能な開発目標(SDGs)」や「パリ協定」等、世界的に持続可能な社会づくりに向けての動きが進展する中、大きな危機感も抱いていました。現状に満足することなく、もっと大きく物事を捉え、社会問題を解決する会社として当社のあり方をもう一度見つめ直す時期にきていると感じています。こうした思いからこのCSRレポートを発行することにしました。まずは、当社にとって重要なテーマである「環境」「安全」「社会」について報告します。

基本を守りながら新たな挑戦も。 「環境」「安全」「社会」への取り組み

「環境」への配慮の視点では、廃棄物収集から中間処理、リサイクル展開におけるCO₂の発生抑制に加え、廃棄物分量を減らすことが肝要であると認識しています。回収し

た廃棄物を高精度に分別する中間処理工場で安定化・無害化し、納入先の工場が受け入れやすい最適な形に加工することでリサイクル率の向上を目指しています。

廃棄物の再資源化にも力を入れており、廃棄物からバイオマス発電の燃料となる再生エネルギー、RPF固形燃料を製造する事業を10年前から開始しています。昨年グループ子会社に加わった高橋製作所は、木質バイオマスから電気・熱・水素の生成を可能にする技術を持つ会社です。同社が提供する木質バイオマスガス化プラントは、炭化炉により原料の木材チップから高純度の木炭を製造し、木炭と水蒸気の反応で水素リッチな水性ガスを発生させるプロセスを経て、水素・熱・電気の3つを回収します。木材の種類や形状を問わず、廃材や間伐材など幅広く原料に使えるのが特徴です。このような設置場所の自由度が高い分散型エネルギー供給事業の推進を行うことで、社会的価値と経済的価値の両立を目指しています。

また、次の「安全」にも大きく関わりますが、振動や騒音を低減し、地域社会への負担を軽減しながら、作業員の働く環境を整えることも重要だと考えています。

「安全」への取り組みは行って当然であり、労働災害が1件でも発生したら、誇れるものではなくなります。災害ゼロは永遠のテーマと言えるでしょう。事故の未然防止のためには作業環境の改善が重要と考え、設備を投入して改善を進めています。その成果もあって事故の件数は確実に減少しています。今後も安全に関する教育に力を入れるとともに、粛々とPDCAを回し、労働災害ゼロを目指していきます。

「社会」との共存の視点では、当社の事業内容からも地域社会への配慮を怠らず、事業に対する理解を深めていただくための活動を行うことが大切になってきます。特に埼玉リサイクルセンターがある一帯は工業地域ではありませんが、近くに民家もあるため、環境保全に努めるとともに、地域社会とのコミュニケーションを継続していくことも重要です。

また、高橋製作所の分散型エネルギー供給事業は、地域一体型事業のロールモデルになりうると考えています。現在、埼玉リサイクルセンター隣で建設中の「吉川再生可能エネルギーセンター」は、経産省から補助金の提供を受け、推進している事業です。当社で製造した木チップを原料に、電気や熱をつくり出し、地域社会に還元するような仕組みづくりも検討しています。

今回のCSRレポートは、今後さらにCSRに関する思索を深めていくための起点になるものと捉えています。そのためには、各ステークホルダーへの影響とこれからの当社への期待を踏まえた活動の推進と情報の開示が重要です。

再生可能エネルギー供給事業のような、事業を通じた社会的価値と経済的価値の創出は、環境に関わる事業を展開する当社の真髄だと言えます。今後も環境に軸足を置きながら事業機会とリスクの観点から社会を洞察し、責任ある事業活動を行うことで新和環境のさらなる飛躍に繋がっていきたくと考えています。

新和環境株式会社 代表取締役 梁川 哲



新和環境は「環境」を事業基盤とする会社として、社会課題や外部環境を洞察し、時代のニーズに合わせて変革を遂げながら事業を拡大してきました。経済的価値のみならず、社会的価値を創出し、持続可能な社会の構築に貢献していきます。

環境

CO₂排出抑制と再資源化の推進

CO₂抑制などの環境への配慮と、廃棄物再資源化などの事業を通じた環境への貢献を通じ、持続可能な社会の構築に貢献していきます。

収集・中間処理・リサイクル P03-04
焼却・再生可能エネルギー P05-06

安全

責任と信頼ある事業環境に向けて

災害ゼロを安全活動のミッションとして、「安全大会」「社員への教育」「労働衛生状況の改善」など、安心・安全に働ける環境づくりを推進していきます。

P07-08

社会

地域に根差した企業を目指して

周辺環境の保全活動と地域社会とのコミュニケーションを積極的に行い、環境事業への理解を促進するとともに、地域社会と協働して生活環境の保全に努めていきます。

P09-10

焼却施設

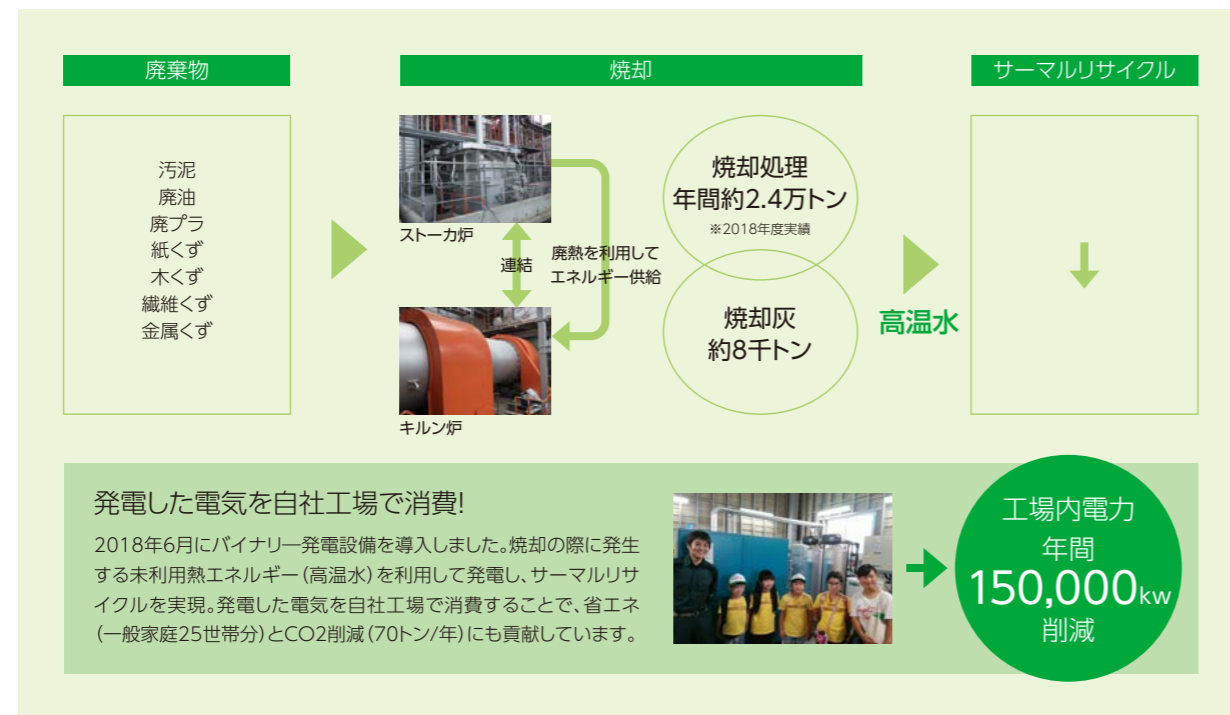


株式会社東海クリーン

㈱東海クリーンは、新和環境㈱と㈲沼田クリーンサービスの共同出資により設立されました。産業廃棄物処理という言葉のマイナスなイメージを払拭し、「産業廃棄物処理＝環境創造産業」であることを発信。オープンでクリーンな企業として「Think Globally Act Locally」の精神のもと、来たるべき「ゼロ・カーボン社会」に向けて地球とともに歩み、未来の環境の創造に取り組んでいます。

環境への取り組み

- 全照明のLED化
- 高効率焼却事業
2炉ある焼却炉のうちの1炉【ストーカ炉】のエネルギー5,300,000kcal/h(重油換算:560L/h)を、もう1炉の【キルン炉】のエネルギーへ供給
- 焼却灰を無害化し、再生砕石へ
道路の路床材、建築物などの基礎材、駐車場の造成、一般住宅のエクステリア工事などに再利用

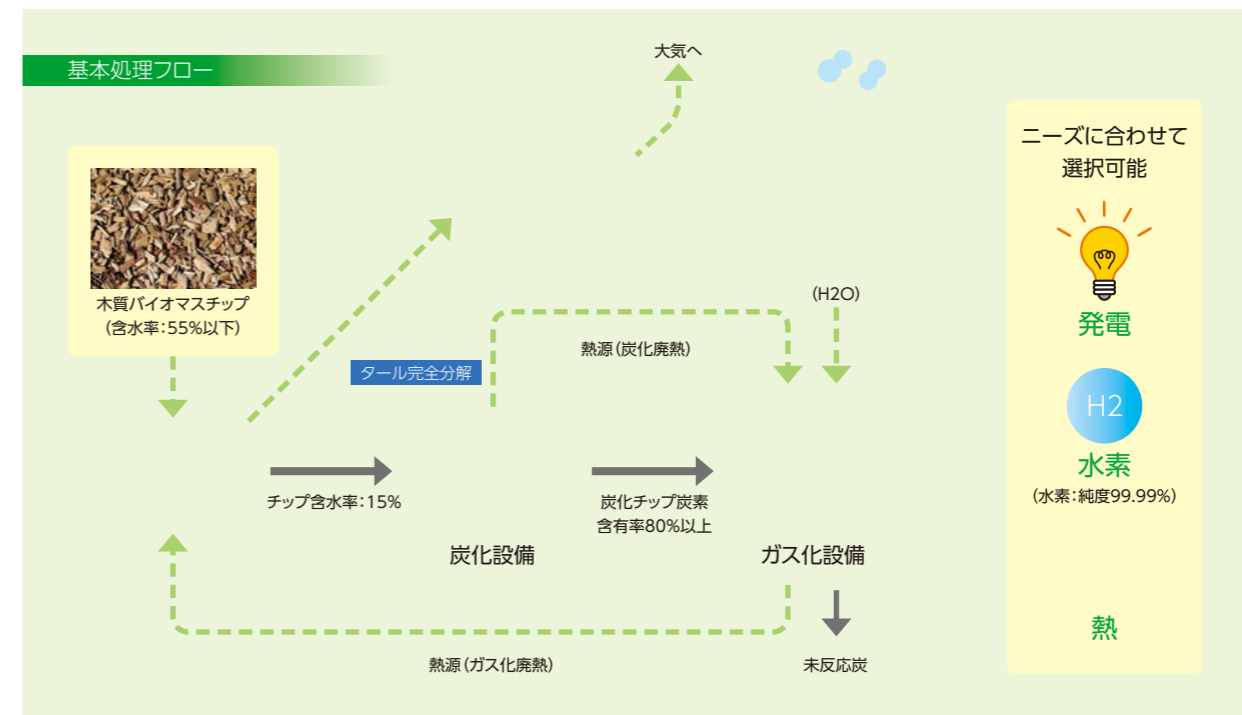
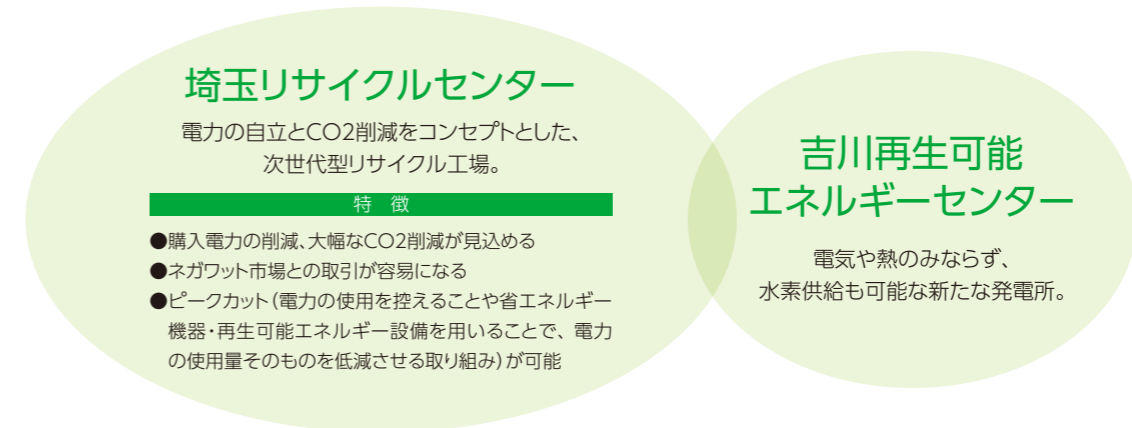


吉川再生可能エネルギーセンター

新和環境(株)埼玉リサイクルセンターに、吉川再生可能エネルギーセンターの建設計画を進めています。本計画は原料となるバイオマスから「電気」「熱」「水素」へのエネルギー転換を目的とし、生み出したエネルギーは工場へと還元され、持続可能なエネルギーの使用を推進する取り組みとなります。
また、削減したCO2をクレジットとして排出事業者へ還元することで、排出事業者へのCO2削減目標に寄与できる事業となります。

事業コンセプト

1. 自立分散型のリサイクル工場
蓄電池と発電所のセットでの電力供給(買電の極力回避&コスト削減)
2. 低CO2排出型の次世代リサイクル工場
CO2排出量がゼロの発電所による電気の高効率利用
3. 地域密着型の水素供給ステーション
水素ステーションも設置し、地域への燃料供給事業への参画



安全に対する考え方

責任と信頼ある事業環境に向けて

新和環境(株)は、産業廃棄物処理業の社会的責任を認識し、お客様へ提供するサービスにおいての法令遵守と道路交通安全対策に取り組みます。収集運搬・移動時において継続的改善を図ることにより、お客様・社会・従業員に対するリスクの低減、更には地球環境の保全に貢献し、必要とされる企業を目指します。

従業員インタビュー



収集運搬部
サービスドライバー
グループリーダー
菅谷 輝明

情報共有による組織知の向上が、安全運搬の決め手

Q 安全運搬についてのお考えを聞かせてください。

A 私が安全について指導するときに各ドライバーに伝えていることは、それぞれの現場のルールに従って、臨機応変により安全で効率的なご提案をすることが大切だということです。現場によって状況が違うなかで、トラックを置く場所など工夫して作業するように指導しています。そのために特に力を入れているのが、情報共有です。先に現場に行ったドライバーからの危険箇所の共有や、事故ケースの周知会などを行っています。

Q 情報共有による臨機応変な対応。この考えが“活きた”エピソードがあれば教えてください。

A 現有車と同じメーカーの新車で、廃棄物の回収に行った社員が、地下に入るときの微妙な天井の高さ不足に気付き、事故を未然に防いだことがありました。**個人の経験を共有し、組織全体の知識を高めてきたからこそ防ぐことができたのだ**と思います。

Q 今後の課題や展望を聞かせてください。

A 配車センター、ドライバーがお互いに状況を確認して判断し、業務改善に取り組んでいることが弊社の特徴であり、安全運搬や競争力アップに繋がっています。今後も回収に向う現場の状況が様々であることは変わりません。そのため、どんな現場でも対応できる応用力のある人材を育てていくことが重要だと考えています。

その他のエピソード

- ドライバーからの提案でお客様への出発前連絡を実施したところ、キャンセルの件数が月に80件から20件にまで減少。
- 車両管理の一環で、タイヤのチェック回数を増やす取り組みを始めたところ、タイヤのパンクとパースト件数も大幅に減少。



RPF製造業務
(破碎・減容施設)
増沢 和巳

RPFの品質向上と作業環境の改善を目指して

Q RPF製造業務について教えてください。

A 当社では化石燃料の代替となる**RPF**燃料を建設廃材から製造しています。その中で、私はRPF原料の分別を担当しています。建築廃材からRPFを製造することは難しく、品質検査で塩素や硫黄の数値が基準値を超えてしまうことがあります。顧客により基準値が違うことや運搬時の環境にも左右されるなど、様々な要因がありますが、基準値超えを減らすために最善を尽くすことが重要です。

Q 品質管理のため、どのような工夫をされていますか。

A **社員教育**に力を入れ、原料の選別を丁寧に指導するとともに選別後の成分測定をその都度行うなどの取り組みに力を入れています。顧客からも平均値では合格点をいただいているが、今後も塩素などの基準値超えを減らす努力を続けていきます。

Q 安全・衛生の取り組みについて教えてください。

A 重機がある現場で働くため、作業を安全に行うための指導を徹底するとともに作業員の働く環境を整えることが大切です。さらに社員の悩みを早期に発見することも大切だと考え、管理部門が週1回のペースで個別に面談も実施しています。社員の負担軽減やヒューマンエラーを最小限に抑えるために新たな設備の導入も検討しているところです。

Q 今後の課題や展望を聞かせてください。

A 今後は新人を大切に育て、**オールマイティ**に活躍する人材を増やすことで、事業拡大に向けて組織を強化していきたいと考えています。

RPF

古紙・木くず・廃プラスチック類を原料とする固形燃料。製品となったRPFは出荷され、燃料コストの削減や二酸化炭素排出量の低減に貢献しています。

社員教育

マニュアルを渡すだけでなく、ベテラン社員がマンツーマンで2ヶ月間ついて、安全な動きを教えています。

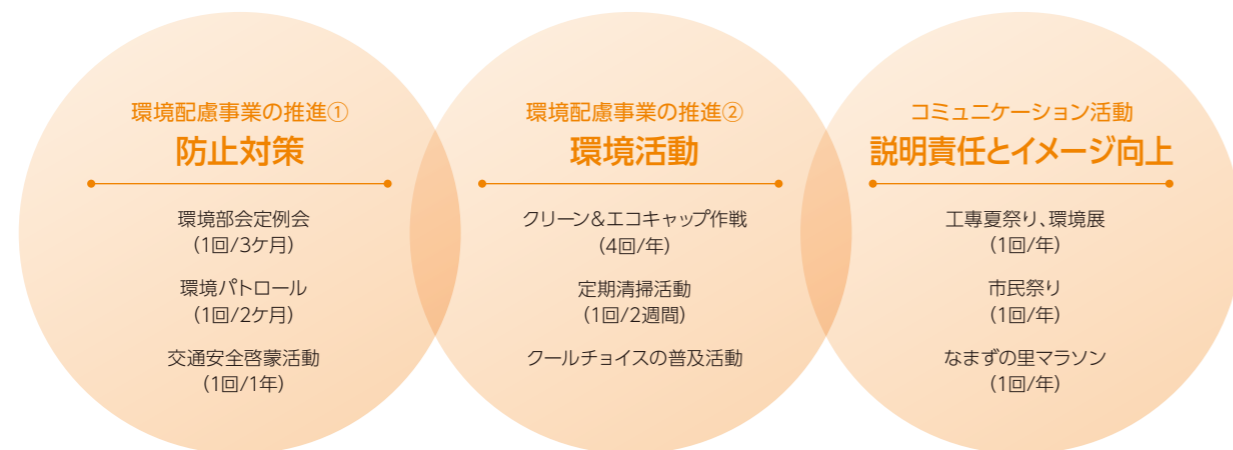
オールマイティ

工場作業員としてRPF製造業務だけでなく、それ以外の作業・業務(工場内業務の全て)も担える人材を育成。業務での人員配置体制を強化することを目指しています。

社会に対する考え方

地域に根差した企業を目指して

新和環境(株)は環境保護活動や地域社会とのコミュニケーションを積極的に行っています。事業活動の各段階で周辺環境に配慮するとともに、清掃活動や交流イベントなどを実施し、地域社会と協業して生活環境の保全に努めています。



活動紹介

環境配慮事業の推進① | 防止対策

環境パトロール



複数の社員で環境パトロール中

吉川工専工業会・環境部会(10社)の会員として、環境パトロールを実施。部会の他に環境ネットワークよしかわ(市民団体)、吉川市環境課、越谷環境管理事務所も参加しています。

施設関係(粉じんや悪臭の防止)、車両交通関係(搬入車両の表示や待機状況や制限速度の遵守)、安全関係(保護衣の着用や整理整頓)において、それぞれの約束事を各社が履行しているか確認し合う活動です。

地域の企業・市民が互いに約束事を履行しているか確認し合うため、抑止力にも繋がっています。また、パトロール報告は1回/3ヶ月の環境部会で行います。環境ネットワークのHPでも「小松川工業団地内環境パトロールレポート」として掲載され情報開示されています。

環境配慮事業の推進② | 環境活動

定期清掃活動



声をかけ合いながら清掃中!

吉川工専工業会・環境部会の会員として、定期清掃活動を実施しています。

会員が所有する清掃車にて周辺地域の清掃を行っています。

地域に根差した企業を目指して、粉じんや悪臭などの発生防止のための美化活動の一環となっています。

コミュニケーション活動 | 説明責任とイメージ向上

環境展



たくさん子どもたちが参加!

環境の大切さを多くの地域の方にお伝えしていくために、パネルやパンフレットを掲示し、事業内容もご紹介しながら環境やエコをテーマにした発表を行っています。

市民祭り



ブースはいつも大にぎわい

ペットボトルのフタを持参すると参加できる「わなげブース」では、輪の範囲にある消しゴムをプレゼントしています。ゲームをきっかけに「再資源化・リサイクル」の意識を持っていただきたいと考えて毎年出展し、今では市民祭りの定番イベントとして好評です。